

平成 26 年度 応用地形判読士が発表されました

平成 26 年度の応用地形判読士合格者が発表されました。

平成 26 年度は、全国で 22 名、その内、北海道では 3 名（全国比 14%）が合格し、全国の応用地形判読士は総計で 51 名、北海道では 4 名（全国比 8%）となりました。

応用地形判読士の試験（二次試験）では、平野部と山地部について、それぞれ 2 問、合計 4 問が出題されます。4 問の合計点数が 60%以上で、かつ各問題の正答率が 50%以上でないとは合格できません。ですから、合計点数が 60%を上回っていても、1 問でも 50%に達していない場合は不合格となります。

一般に、地質関連学科を卒業した人は、平野部の地形判読が苦手なように思います。

これを克服するには、橋梁調査や盛土調査などの平野部の調査の時に、空中写真や地形図の判読を行い、旧河道・自然堤防や湿地などを読み取る訓練をして実務に役立てると同時に、鈴木隆介氏の一連の著書、「建設技術者のための地形図読図入門」で基本的な知識と技術を身につけることが大事だと思います。特に、地形発達史的な観点から地形を見る必要があります。

現在、実感としても気候変動が極端になっていると感じます。痛ましい土砂災害も発生しています。広い範囲の地形を判読し危険箇所を抽出することが、建設事業を効率的に進めるために、ますます必要になっていると思います。

多くの人が地形判読士への挑戦を機会に、地形図読図、空中写真判読の技術を向上させてほしいと思います。

応用地形判読士については、全地連ホームページの「資格制度＞応用地形判読士」を見て下さい。

全地連 HP は、< <http://www.zenchiren.or.jp/> >です。

2015 年 3 月 3 日（技術アドバイザー 石井 正之）